

5 未利用資源のきのこ培地基材への利用に関する試験(第2報)

予算区分：県 単
担当科名：生物資源科

研究期間：平成12～14年度
担当者名：宗田 典大

・目的

スギ間伐材の一部や、3千? 以上のマツクイムシ被害材は有効に利用されず林地残材になっている。また、年間50万本以上がシイタケ原木栽培で植菌されているが、2～3年間収穫されシイタケの発生量が減少したほだ木は廃ほだ木となり、ほだ場周辺に放置されたり燃料として焼却されている。本研究の目的は、これらの林地残材や廃ほだ木を利用したきのこ栽培の検討を行った。

・試験内容及び結果

(1)廃ほだ木、マツクイムシ被害材を利用したマイタケ栽培試験

本年度は、平成12年度に行ったマイタケ栽培試験について、マイタケの発生量を調査した。

廃ほだ木を利用したマイタケ栽培試験におけるマイタケの発生量は、廃ほだ木(大)で2.1kg、廃ほだ木(小)で0.7kg、コナラ原木では3.2kgであった。また発生量を1? あたりの重量で比較すると、廃ほだ木(大)で45kg/?、廃ほだ木(小)で19kg/?、コナラ原木では60kg/?であった。1? あたりの発生量では、廃ほだ木(大)はコナラ原木に対して7割以上発生した。廃ほだ木(小)ではコナラ原木の約3割程度であった。

また、マツクイムシ被害材を利用したマイタケ菌床栽培試験は、平成13年度のマイタケの発生は確認されなかった。埋土した菌床は腐ってしまったと考えられる。

(2)スギ間伐材を利用したクリタケ栽培試験

スギ間伐材を利用したクリタケの原木栽培の検討を行った。

試験はスギ原木を10～15cm長に玉切りし、広葉樹オガ屑、米ぬかと約70日間培養したクリタケ種菌を混合したものを木口面に塗って3段に積み重ねた。ほだ木は乾燥を防ぐ目的で、新聞紙で包みさらに寒紗を掛け林業試験場場内スギ樹林下に仮伏せした。

植菌から100日後、雑草を除去したスギ樹林下に溝を掘り、クリタケほだ木を埋めた。当年度におけるクリタケの発生は確認されなかった。